

立命電友会

禁断・奇談 豪語・日本国史上最多最強軍団

柴田健雄
(昭和44年卒)

目次

- P1 …… 巻頭言
- P2 …… 退職のご挨拶
- P3 …… 退職のご挨拶
- P4 …… 卒業生からの投稿
- P5 …… 卒業生からの投稿
- P6 …… 在校生からの投稿
- P7 …… 就職・進学状況
- P8 …… 入会式・学系
便り



さての、過日。
とは、1月下旬の話なれど、
「立命電友会事務局」妙齢の美女
より、メール一発、受電。
オッとの、妙齢か、美女かは、
お会いしてませぬ故、不明なれど
です。
での、瞬時、美女からの、ラブ
レターかと。
そんな筈はの、「件名」チラ見
の、「立命電友会執筆のお願い」
まあ、云うたら、アンケート的
その手の類の全会員に打電の話か
と。
思いつつの、文面拜読での、え
の、ギクリ。
「会長の瀬見様よりご推薦を頂
き、表紙に執筆をお願いできませ

んでしようか。」
イヤ、瀬見英利君(以下、瀬見
君)なら承知の、彼、立命電友会
会長様してるかと。
知らなんだなど。
イヤイヤ、何を隠そおの、隠す
事は無いの、瀬見君とは、同期生
でして。
昨年末、少人数(6名) 同窓会
に、瀬見君、顔出しの、それが実
に、卒業(昭和44年) 以来の事
して。
ならばの、多少の心当たりある
は事実の、そやけどなあと。
「執筆」の2文字、重たいわと。
「投稿」なら、してるの、電子
掲示板と称するのモノなれどと。
「取材」されるも、経験あるの、
ホームページ(名称「シバケン
天国」)に関連での。
とかの、一寸だけ、宣伝させて
戴きの。宣伝しても、一銭の儲け
にならぬです。
での、同窓会にての、閲覧して
頂戴など、ホームページの存在、
教えたは事実。
斯くなるでの、「執筆」なる文
言重いけれど、そとなればの、
断るのものと。

私、こ見えても、義理堅く。そ
れが唯一無二の取り得哉。そ
さもなくばの、執筆依頼、来る
筈無く。
世間周知の有名、高名で無く、
完全無名。
立命館大学には、卒業して以来
寄った事無く。衣笠学舎のソバな
ら、幾度も通過してるですが、ド
ライブコースに最適でして。
されどの、大学の、各種行事に、
不義理の参加した事も無く。
先程、義理堅いと、申したです
が、別途の話、出不精でして。
での、瀬見君、そんな事での、
も1人、大学にご縁が存在してる
です。
津田見真君(以下、見真君)で
して。
イヤ、両君、立命館大学にての、
後輩の指導してるです。
単純明瞭、単刀直入、云うてや
るの凄いの、同期生で2人もや
でと。
とかとかの、宣伝しても、自慢
をしなくても、これ又、私に一銭の儲
けに成らぬです。
正直、我が事の如くに、嬉しく、
自慢哉。
見真君なら、先の同窓会にはン
年前より参加してまして。前回に
は、たまたまのご用で不参加でし
て。
そんな話は結構の、見真君から
は、瀬見君の事も聞いてるの、大
学主催の各種催しの世話役やっ
てると、だけでして。
大学で、後輩の指導してる。
とまでは、聞いてませんでして。
云うてても、右から、左にスト抜

けてるか。
兎に角、世話役やってるとの事
での、瀬見君、そんなに、世話焼
きやっただかかと。年月経て、人
間の幅も出来たかと。
幅ねえ。
過日、同窓会の折、紳士然たる
のが、こっちの方に接近の。よお
知らんのが、何用かと、顔見ても、
分からんでの。
ソラ、卒業以来、44年ぶりです
て、腹見て嗚呼と、瀬見君かと。
変わってないなあと、変な処で、
安堵して。
での、両君、そんなに優秀やっ
たかかと。
優秀で無いとは申してません。
表現変えれば、そんなに頭抜けて
たの印象無く。
されどの、瀬見君、印象深く、
再会、楽しみにしてたです。
彼の学生時代、真面目の眞真面
目の顔して、冗談連発、割軽族。
且つは、紅顔の美青年。
誰しもの、20歳そこそこなら、
紅顔の美青年なれどです。44年を
経て、そのままなら、妖怪、物の
怪、化け物、幽霊でして。
ついでになら、電気工学科の面々
に、不真面目、香具師、虚言癖の
存在、知らんわ。
概ね、堅物、石部金吉多いかと。
での、私、現在、京都亀岡在住
なれどです。
京都で生まれ、育ち、24歳にて、
京都市出たですが、聞かさ
れてまして。「立っちゃん」「同や
ん」なるの、文言をでの、意味合
い、誰もが承知の、「立っちゃん」
なるは、親しみを込めて。
「同やん」「立っちゃん」
けええ恰好しいのニュアンス含ま
れてるか。
さての、我等が受験時代、私学
で、大学、立命館、同志社しかあ
りませんで、
京都は、「学生の都」でありの。
私学なら、外にも一杯あるですが。
当世、一々の覚えてられん程、存
在致すですが。理系は、二校以外、

存在してませなんだです。
での、同志社なるは、親金持ち
の、一寸だけ、頭のええ子女の、
大対して、立命館なるは、貧乏人
の小倅の。ホンの僅かだけ、頭の
ええの、向学心旺盛なるのが進む
の大学での、授業料も私学で、一
番に安かったです。
そんな次第の、私、問答無用の、
志望校、決まってる。私、
但し、向学心旺盛、別途の話な
れどです。
での、ここの話の、当時、
立命館大学理工学部での、難関、
電気、機械。
より、寄って、何故に電気工学
科を選択かとなればの、怖い物知
らずであつただけ。
運任せの、入れてよかったな
と。
偏差値なんか知らんわの。模擬
試験の結果判明、半年経ってから
やと。
何分の、パソコンでは無く、電
子計算機の時代哉。それも、使わ
ずの手計算哉。
さての、「豪語・日本国史上最
多最強軍団」意味なるは、我々、
所謂の、ベビーブーム世代での、
公称270万人。
当世、100万人。
日本国史上最多、歴戦の最強世
代哉。反面、邪魔者扱い、標的に
も、されてるです。
以て、我が同期生、瀬見、見真
両君、大学で指導してるは、分か
る気がと。
それで、モ一発、禁断・奇談、
ここの話。
平成6年、理工学部、草津に移
動。
正直、寂しい思い致してるです。
私共、残念乍らの、草津に想い
出皆無の、右も左も分からんわと。
願わくばの、催し等々、衣笠学
舎で開催、一考を。
立命電友会会長様瀬見君にでも、
云うとこかと。

退職のご挨拶

退職にあたって

小松 康 廣

(電気電子工学科)

本年3月末日で38年間お世話になった本学を定年退職となります。座右の銘とか趣味はないので、自分の過去を綴ってお茶を濁させていただきます。

昭和41年に兵庫県立姫路工業大学電気工学科に入學しました。通うと2時間半もかかるので下宿しました。受験から解放され、時間はたっぷりあるようなので、早速、鉱石ラジオと水時計を作り始めました。しかし、1回生前期から物理実験があって、その作業をしているとレポートを書けないことがわかりました。そこで止む無くそれをあきらめました。そして、後期から空手道部に入りました。練習は辛かったです、人間関係のストレスの解消効果がありました。左足の蹴りと右手の突きは強くなりましたが、左右均等に強くしておけば良かったと悔やまれます。他大学との試合の後、足が痛くて自転車に乗れませんでしたが一週間後に自然に治りました。また、合宿、寒稽古の辛さを忘れることはできません。この空手道部に入ったことが後の人生において最も役に立ってよかったです。

す。

3回生の頃、本屋で阪大の安藤弘平先生の電気機器工学(電気書院)という小さな本を見つけました。この本は、先生と生徒の対話形式になっていて、読者に考えさせるような工夫がなされています。この本の面白さに取り憑かれて読み進んでいき、卒研配属先も希望の海津先生、宮脇先生の電気機器工学講座となりました。研究テーマは「非線形要素を含む電気回路のデジタル計算機による解析」でした。非線形磁気回路を含んだ電気回路の微分方程式からアナログコンピュータのブロック線図のようなものを作ります。これがデジタル計算機のプログラムとなり、シミュレーションできます。ブロック線図には微分器でなく、積分器が用いられ、積分器には初期値を設定できます。初め、初期値を設定できる理由がわからなかったのですが、コンデンサの動作を考えれば首肯できました。その後、京都大学大学院修士・博士課程に進みました。上之園先生、岡田先生のご指導のもと修士では同期機のインダクタンスの研究、博士では

制動トルク係数を用いた同期機の乱調現象の研究に取り組みました。制動トルク係数の計算では、オペレーションナルインピーダンスO Iが必要になります。従来から、O Iを構成する諸定数は近似的に求められていました。近似値を用いない方法はないかと考え続けていました。が、銀閣寺の下宿から京大までの下り坂を自転車ですり足で歩いているときに、いい方法を思い付きました。その後、運動時に脳への血行が良くなり記憶力等が増すことを知り、なるほどと思いました。

昭和50年に本学電気工学科に助手として採用していただきました。ここでは負荷特性を考慮したP Mモータの等価弱め界磁の研究に取り組み、最適定数値の決定法などを明らかにしました。本モータの等価弱め界磁は、よく知られたD Cモータの弱め界磁制御と似ています。本モータの等価弱め界磁では、トルクに寄与する電流 i_a 以外に、寄与しない電流 i_b を流します。それによってトルク定数(逆起電力定数)が低下し、 i_a が増え、トルクと速度が増加します。また、三相電力用アクティブフィルタなどの電流指令値算出法として拡張 α 理論を導きました。これは非対称電圧時に使えない α 理論の欠点を修正したもので、新しい q の定義を採用しています。特許申請時に、既に「新しい q の定義」の存在することが特許庁から指摘されましたが、特許は成立しました。

最近は一方向通電横方向磁束形ブラシレスD Cモータおよびこれと発電機とを組み合わせたM Gセットの試作研究をしており、ここでようやく、大学生の時の念願であった「工作」ができることになりました。

退職にあたって

小野 雄 三

(電気電子工学科)

本年3月末日で定年退職いたしました。大変お世話になり、誠にありがとうございました。新任のご挨拶を本会報に書かせて頂いたのがつい昨日のように思い出されます。

光工学科の1期生が4回生になる年、所謂学科の完成年度の1999年4月に着任し、光工学科が改編されて出来た電子情報工学科が昨年再度改編されて、新「電気電子工学科」になって、電子情報工学科の新生がなくなっています。1年で定年となりました。光工学科・電子情報工学科の学科と共にあった14年間と言えます。着任2年目に学科名称変更で大学審議委員会の委員に意見を求めに東京まで行ったり、付属校に学科名アンケートの依頼に行ったり、ま

た新学科のパンフレットを作成したりしたことも思い出に残っています。但し、電子情報工学科の最後の入学生は2013年4月に3回生になりますので、少なくとも後2年間は特任教授として旧カリキュラムを実践するのが義務とされています。私の研究室を巣立って行った学部生117人、修士24人、皆の顔が思い出されます。4回生の学会発表、修士の国際会議発表、そのリハールをスイス土産に買って来たカウベルを叩いて行ったのも楽しく思い出されます。その後研究室を訪ねて来てくれたり、リクルータとして何度も訪ねて来てくれた卒

業生も居て研究室の学生への良い刺激になりました。

学部役職も経験させていただき、学部部長として、また大学協議員として修羅場のような会議に出る羽目になったこともありましたが、立命館を深く知るための経験でもありました。私大連盟の理工WGにも立命からの委員として派遣されたことがあります。これは理工事務室のバックアップを頂き、立命の評価結果を非常に高いものにする事ができました。

例えば小学校4年生10才の時、世界初の人工衛星スプートニクが打ち上げられ、これからはソ連の時代と、ロシア語を第2外国語として学んだスプートニク世代であり、大学生時代には学園紛争で7ヶ月の空白を余儀なくされ、3年半足らずで卒業した紛中派でもあります。企業での29年間、立命館での14年間の合計43年間、光・光エレクトロニク技術に携わり、光・光エレクトロニクス技術・産業の勃興期から円熟期までをその中で見て来られたのは幸せであったと言えましょう。

在籍中に応用物理学会から「ホログラム光学素子の研究開発による回折光学分野の形成」と言う貢献理由でフェロー表彰を頂きました。また、ISOのWGの国際コンビーナ（議長）を長く務め、日本主導による国際規格の策定に貢

献したとの理由で経産省から国際標準化貢献者表彰をいただきました。これらが43年間の締めくくりでもありました。

最終講義は勝手ながら辞退させていただきましたが、代わりに左記URLをご覧下さい。光技術・産業分野の商業誌（OplusE誌）ですが、最終講義のつもりでインタビューを受けました。雑誌と同じ版組のものはご連絡下さればお送りいたします。

http://www.adcom-media.co.jp/remark/2011/10/25/3587/ これに加えて今の社会情勢を踏まえての大学教育のあり方、技術者として教育して世に出した卒業生について、語りたいたことは多々あるのですが、収拾がつかなくなりそうです。そこで、これらについてうまく述べられているコラムを見つけたので、次のURLをご覧させて頂いて私の思うところを思慮いただければ幸いです。

http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20130107/258993/?ST=print
http://techon.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20120702/226332/?ST=print

最後になりましたが、会員諸賢の益々のご健勝とご発展を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

退職にあたっての雑感

左 貝 潤 一
(電気電子工学科)

私は1995年にNITTの基礎研究所から立命館大学理工工学部に赴任しました。翌年から発足する理工工学科の教員としての採用でした。就任当時は、学生実験のテキニスト準備、就職依頼のための企業訪問、受験生確保用の高校訪問、講義準備などで忙しくしたのを思い出します。

私は1995年にNITTの基礎研究所から立命館大学理工工学部に赴任しました。翌年から発足する理工工学科の教員としての採用でした。就任当時は、学生実験のテキニスト準備、就職依頼のための企業訪問、受験生確保用の高校訪問、講義準備などで忙しくしたのを思い出します。

学科新設そのものは文部科学省の印象が良かったらしいのですが、高校生やその父母には学科内容が理解されず、学生確保に苦労し、ついには学科名称を電子光情報工学科に変更せざるを得ませんでした。このときにも奔走した記憶があります。そして、2012年4月には旧電気電子工学科と合併し、新電気電子工学科となり、光が名称に入った学科が消滅してしまいました。全国的傾向とはいえ、寂しい限りです。特に私は応用物理学科出身で、光には思い入れがあるだけになおさらです。

定期試験用の問題を教えておく、予告問題方式にしました。それでも理解度の差は歴然でした。講義では毎回、出席学生数を数え、基礎データとして残しました。大体3回目から出席学生数が階段状に減ることが分かりました。多くの講義科目を担当しましたが、その中で、10年以上にわたって担当した「幾何光学」、「複素関数論」、「光通信工学」で、年度毎の平均出席学生数と単位取得者数のグラフをとったところ、これらの間には非常に大きな相関があることがデータで裏付けできました。これは当然の帰結であり、不断の努力の積み重ねが重要なことを物語っていると思います。

研究を進める際には、学生の能力を早期に見極め、適切な難易度のテーマを設定することの重要性を身にしみて感じました。「美しい人はより美しく、そうでない人はそれなりに」というCMの精神がここでも通用するように思いますが、頑張る学生には、研究の手助けをして頂き、フォトニック結晶ファイバの一種であるブラッグファ

イバの各種伝送特性解析、画像直接伝送実験、光通信部品関連分野などで、ある程度の成果を出せたのではないかと思います。印象に残っているのは、日韓共同開催のサッカーが行われていた2002年に、学外研究で4ヶ月半ほど、フランスのアルカテル社の研究所で自由な時間をもたこととです。この時期に、後ほどの主要テーマとなるブラッグファイバの研究の基礎ができ、退職の時期を迎えた今でもテーマが尽きません。また、同社の人には親切に接して頂いたことを有り難く思っています。在任中、エッフェル塔が見えるマンションの一隅に仮の住居を構えました。通勤では、絵画にも描かれているサンラザール駅から列車に乗りましたが、通勤列車の出発番線が毎日異なるのには驚きました。

研究の傍ら、著書の執筆にも励み、「光学の基礎」、「光通信工学」、「導波光学」、「フォトニック結晶ファイバ」、「光学機器の基礎」の5冊を刊行できました。研究生活で得た経験の一部を恩返しできたのではと思っております。

今後、『努力に勝るものはない』ということを念頭に、適切な目標を定め、ステップバイステップで学生を導いていって頂ければと思っております。

必ずどこかから不満が出てしまい

必ずどこかから不満が出てしまい

『仲間』

中部電力株式会社勤務

木戸口 幸司

(平成4年卒)

初めに、一昨年に発生しました東日本大震災から早2年が経過しました。震災と津波で被災された学友の皆様には心よりお見舞い申し上げます。今回の東京電力福島第一原子力発電所での重大な事故により平穏な日々の暮らしが奪われ、依然として多くの方々が避難生活を余儀なくされていることは、電気事業に携わる者にとって痛恨の極みであります。元の暮らしに戻るには、まだまだ相当な時間が掛かるようですが、被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

【学生時代の思い出】

私は、三重県の高校を卒業し、1988年に理工学部電気工学科に入学しました。入学前の1年間は、バラ色の大学生活を夢見て京都で浪人生活を送っていました。今想えばこれまでの人生の中で一番勉強に励んだ1年間であったような気がします。その反動かどうかわかりませんが、学生時代はほとんど勉強もせずバイトに明け暮れた生活を送っていました。最初は、親の仕送りの負担を少しでも減らそうと思って始めたバイトでしたが、仕事の厳しさや責任感とお金をいただく喜びを実感することができました。バイトを通じ数多くの仲間と知り合うことができ、良い社会勉強になったと思っています。大学生活では、勉強以外にも地方から集まった気の合う仲間と朝まで語りあったり、飲み明かしたり、初めての海外旅行など仲間と過ごした4年間はとても楽しい思い出となっています。そうした仲間がいたからこそ今の自分があるのだと感じています。

また、4回生になり研究室では、「太陽電池に適したインバータ回路の設計」をテーマとして研究に取り組みました。当時、研究室には殆ど顔を出さず週1回のゼミに出席する程度で、ある日、指導を受けた浦山先生から「卒業論文は進んでいるのか？」と聞かれ、「ほとんど進んでいません」と答えると先生からアドバイスをいただき、結局、実験と言えるものは殆ど実施できず、毎日図書館に通い、やっとの思いで論文を完成させ卒業させていただくことができました。

【就職後の仕事】

平成4年に電気工学科を卒業後、中部電力株式会社に入社いたしました。当時は、バブル景気末期ではあったもののまだまだ売り手市場であり、苦勞することもなく就職することができました。まず、社会人としての自覚と心構えなど学生生活を払拭すべき1か月間の研修期間を経て配属になりました。最初は、名古屋市内の特別高圧地中電線路の設備を保守する部署で2年間過ごすことになりました。右も左も分からない新人社員に先輩方は温かく接していただき、仕事というものを一から教えていただきました。その後、名古屋市内への超高圧(275kV)地中送電線路を導入する建設プロジェクトに携わりました。市内を流れる堀川を利用し約100m近いケーブルドラムを台船で運搬するという、通常の陸上輸送ではなかつた工法の採用により、数億ものコスト削減を実現することができました。その後、いくつかの職場を経験し、現在は、名古屋市中心部の経年劣化を迎える地中電線路設備の改修工事を担当しており、同じグループの仲間と、如何に安価で信頼性の高い設備を建設するか日々議論しています。

【今やるべきこと】

名古屋市中心部の地中電線路は、1980年代に建設した設備が多く今後リプレース工事が増大してきます。10年後には、現在の約2倍程度の工事量になり、限られた要員の中で電力品質を低下させることなく効率的に実施する必要があります。それには現状業務のやり方を見直し、仕事の仕組みを変えることが必要になります。そこでこれまでの業務内容を一つずつ洗い出し、生産性向上に向けた施策を検討しております。また、工事業務の経験が少ない若年層を一人前に育てる必要もあります。これまで、少しずつ業務を与え一人前に育ててきましたが、これからは、短い期間の中で人材をどのように育成していくかが課題になります。今は入社2〜3年目までの若年層は現場経験が少ないため、現場における設備設計、施工ポイント等のOJTを実践しています。

【梨花会の紹介】

最後に「梨花会」の紹介をさせていただきます。梨花会は、立命館大学を卒業した中部電力に在籍する社員とOBで構成されており、現在の会員数は、昨年の4月に100名を超える大所帯になりました。このうち立命電友会のメンバーは約40名に到達しました。梨花会の由来は、立命館大学寮歌の歌い出しに「夕月淡く梨花(りか)白く春宵(しゅんしょう)花の香(か)をこめて……」の『梨花』にあるそうです。恥ずかしながら、その事を知ったのは入社後何年か経ったときでした。梨花会は、毎年梨の白い花が満開になる春に新しい仲間の歓迎会を開催しております。秋には、愛知県校友会で梨花会の仲間が集まり京都での楽しい思い出や最近の職場での出来事など語らう場になっています。また、この4月にも新たに8名の仲間が加わりと聞いており、梨花会で会える日を楽しみにしております。

(終)

立命館大学が私に影響したこと

IPシード特許事務所 代表弁理士

華山浩伸

(平成8年 電気電子工学科卒)

1996年に立命館大学を卒業して早17年が経ちました。卒業後の私は、小学校から学校教育を受けて大学を卒業するまでの17年間(浪人期間1年含む。)の私に並び、今、それを追い抜こうとしています。このタイミングで電友会会報への執筆依頼をいただき、自らを顧みる機会を得られたことに感謝いたします。

現在、私は、大阪の南船場の地で特許事務所を営んでいます。2009年4月1日に開業し、この会報が皆様の手元に届く頃に開業5年目を迎えます。このようなビジネス環境に身を置くことになった起点は、間違いなく立命館大学にあります。少し在学中の思い出をたどりながら、今の自分に至るまでの経緯について以下に記載します。

〈在学中〉

将来の夢という少し大きすぎですが、入学するまでは将来やりたい仕事を思い描いていました。しかし、残念ながら受験時代にその夢を実現することができなくなり、まるで眼の前に霧がかかったような状態で衣笠の門をくぐったことを思い出します。当初は再受験を

考えていましたが、気の合う仲間ができるにつれてそのような気持ちも薄れていき、将来の目標という1点を除けばほとんど全てにおいて楽しい学生生活を送ることができました。

楽しいことばかりではなく、勉強については苦い記憶が多く、本当に大変な思いをしました。というのも、受験時代は化学が得意で物理はからっきしでしたから、電気電子工学科の専門授業、特に電磁気学などにはついていくので一杯、というよりもまったくついていけませんでした。もちろん、成績については、ひいき目に見ても優秀とは言えず、「良」とも言えないもの。今にして思えば、現在の仕事柄、もっとしっかりと専門学を学び身につけておけばよかったのですが、いかんせん、「大学では交友関係を広めることに努めよ!」の父の言いつけを忠実に守らなければならなかったため致し方がない。この言いつけは私の勝手な都合で少しモディファイしているため、本会報を父に見せることができないのが残念です。とはいえ、履修をおろそかにしたわけではなく、3回生が終わる頃には、

卒業研究と一般教科一つ(確か英語だったと記憶している。)を残すだけでした。各科目の評価は別にして極めて効率よく履修(単位取得)できた自分を今更ながら誉めてあげたい。もちろん、私の履修に惜しみなく協力をしてくれた友人が一番大変であったのかもしれない。その友人には感謝を込めてトロフィーを贈呈したいほどです。

話は学生生活のスタート時に戻りますが、将来の目標を見失っていた当初、在学中のたったの4年間で自分のやりたいことが本当に見つかるとか、見つかることができるのか、とても不安でした。そんなものは簡単には見つけれず、在学中に見つけられないのが普通かもしれない。しかし、当時は、自分を取りまく周辺環境が私をそのように駆り立てていたような気がします。実は、この不安は在学中の早い段階で払拭されます。1回生のときのクラス分けで、私は恩師である辻村先生が担当するBクラスに割り当てられ、同じBクラスの一人の友人と出会ったことが、今の仕事を始める起点となりました。ちなみに、当時の辻村先生は、ギョクリ腰のため杖をついて教壇に立っておられ、ほんとに大丈夫かいな?と思っただほど痛々しくしていたことが鮮明に思い出されます。

私と彼はともに大阪からの通学組で、一緒に帰ることもしばしばあり、片道2時間超の通学時間にいろいろな話をするなかで、彼の父が弁理士であることを知りました。今でこそ弁理士という資格はそれなりの知名度がありますが、当時はあまり知られておらず、もちろん私も知りませんでした。友人から耳にして直ぐに「便利屋」という文字を頭に描いたほどです。その後、徐々に興味を沸いてきて、彼からその職業について聞いたり、彼の父にもお会いして実際の仕事内容のお話をお伺いしたりするなかで、私の中でブランクになっていた目標設定欄が新たな目標値で埋められました。彼にこのような思いを告げたかどうかは忘れてしまいましたが、改めて本誌を借りて感謝の気持ちを述べたい。

〈卒業後〉

将来の目標が定まりはしましたが、製造業を営んでいる父の影響を受けたのか、それとも趣味のバイクいじりがそのような気持ちにさせたのか、モノ造りに携わりたという思いも芽生えてきました。理工学部の拠点が衣笠からBKCに移り、就職活動を間近に控えた頃になり、どちらを選択するかを決めなければなりません。当時、弁理士を目指すといってもハードルがかなり高かったことに加え、仕事をしながらでも目指せると考えた私は、モノ造りに携わりたいとする気持ちを優先しました。そして、大学を卒業後は、民間企業(ダイハツディーゼル株式

会社)に入社しました。幸い、同社では船舶の操縦システムや艀装機器の設計開発業務を担当することになり、また、厳しい先輩方にも鍛えていただいたおかげで、実際の技術開発の現場で楽しく充実した5年間を過ごすことができました。このときの経験は現在の仕事においても大きな影響を与えています。紆余曲折を経て企業を退職した後に特許業界に身をおき、平成16年に弁理士登録をしました。

〈これからの目標〉

今回の執筆を機に過去を振り返ってみると学校教育期間17年間と社会人生活17年間とがたまたま一致していた。これは単なる偶然ですが、もしかすると学校教育期間17年間の蓄えで社会人生活17年間を過ごしてきたのではないかと考えて浮かんでくる。仮にそうだとすると、私を含むアラフォー世代は、誰かにディレクションを示してもらえないという期間を卒業し、誰かにディレクションを示して目標となるレールを照らす側に立ち位置を変えなければならぬのであろう。言うは易く行うは難しではありますが、在学中に得た起点から目指すべき将来の姿を私に照らしてくれたように、これからはその役割を我々が担って行かなければならないと改めて強く感じています。

「立命館での学び」

大橋 正治

(博士後期課程1回生)

私は現在、立命館大学大学院の博士後期課程に在籍しており、一般的にGPSで知られている衛星測位システムについての研究を行っています。過去のことをあまり精細に憶えていません。そのためか、普段から過去を振り返るということをしません。そこで、この度の本原稿の執筆依頼は、いつのまにか過ぎていた四半世紀の人生を振り返る良い機会だと思えます。こういった文章は久しく書いていませんので悪文、醜文にはなるかと思いますが、ご容赦のほどよろしくお願ひ致します。

私が記憶している体験した事象、実見した光景、内発した感情を情報量にすると、それは過去に遡るほど指数関数的に減少します。本原稿を執筆するにあたって、学生生活における記憶をなるべく多く引き出そうとしました。すると、拙い記憶の中にも現在の状態に至るための要因と思われるものがありました。それらに焦点を当て、私の今までの学生生活がどんなものだったのかを述べていきます。

私は中学受験をして、立命館中学の生徒となりました。これ以降は全て推薦で進学しましたので、最初で最後の受験となりました。このときに記憶に残っているのは、国語の試験において400文字程度の記述問題がいくつか出題され、全て解けなかったことです。そもそも受験勉強をしていても、算数と理科の成果は順調に上がりましたが、国語についてはあまり伸び代が感じられませんでした。そのため、算数と理科に重点を置き、社会と国語については当日の調子に任せるという作戦で入試に挑むことになりました。当然、そんな甘い考えは通じず、作戦は失敗しました。算数と理科の解答には自信がありました。記述問題は立命館中学入試の名物であり、それを解けなかった私は不合格だろうと思いましたが、もうお分かりだと思えます。結果は合格でした。この結果から私は理系の人間であるという漠然とした認識が生まれ、また国語などの文系科目

は私にとって重要ではないと思いましたが、後にこの考えは大きな間違いだと気付き、後悔することになります。内容はともかく受験に合格し立命館中学の生徒となりました。

中学高校のときの私は、あまり真面目な生徒ではありませんでした。受験勉強から解放されたということもあり、勉強に対するモチベーションを失っていました。立命館は中高一貫制であるため、高校へ進学するための特別な勉強はしていません。高校に入ると理系と文系の授業が分かれ始め、私が理系の学生であると肌で感じるようになりました。理系科目の授業は楽しかったのですが、熱心に履修していたかと言われると、そうではなく、考查においても好成绩ではなく及第点を目標としていました。このモチベーションの低さは今だから反省しています。

大学へ入学するのも内部進学でしたので、特に苦労することなく希望の学部学科に入ることができました。ここで、私が選んだのは理工学部電気電子工学科でした。もともと電気製品が好きであり、それらの機構を学ぶには最適な学部であるというのが動機でした。大学の授業は、単位を考慮して自分で選択するというところこそ新し

いものでしたが、座学の授業そのものは中学高校のときとそれほど変わらないうものでした。レポート提出という課題もありましたが、単に解答をレポート用紙にまとめるだけのものでした。2回生になると、実験演習が始まり、実験レポートの提出がありました。今でも、週に実験レポートを1編というのには少ないと感じますが、当時はその1編に追われていました。苦勞の理由は明白でした。作文能力が欠けており、私の考えをなかなか文章にまとめることができませんでした。課題をこなすだけの3年が過ぎ、4回生になると、研究室に所属し卒業研究を行いました。私はGPSなどの衛星測位システムの研究を行っている情報通信システム研究室に所属することとなりました。私は方向音痴であり、道に迷うことがよくありました。そんな私と同じように道を失ってしまような人々を助けるGPSというものに興味があったというのが動機でした。そして、ここがこれから長く続く衛星測位の道の入り口でした。研究室に入って感じたことは、「自由」でした。ゼミという名の勉強会こそありましたが、それ以外は何をすることも自由でした。それまで、受動的に授業を受けてきた私にはとても新鮮で居心地が良いものでした。しかし、能動的に勉強に取り組んでみて気付いたのは、基礎知識が足りないということでした。モチベーションなくして、授業を受けているだけでは、身につくものも少ないです。研究室に入ってから、モチベーションも上がりましたが、これまでの怠惰な学生生活は、研究の足を引っ張ったと感じます。それから、卒業研究を経て大学院に進学し、現在の博士後期課程に至ります。

これまでの学生生活を振り返ってみて、後悔していることが多いと思えました。ここまで読んで下さった方の中で、現在大学院への進学を考えている方には、「こんな人間でも大学院で研究をしている」ということを励みにはせず、参考にしていただければ幸いです。また本文中の登場人物は私だけです。決して一人で生きてきたわけではありません。たくさんの人の出会いがあってこそ現在の私があります。今まで私を支えて下さった、また、今まさに私を支えて下さっている皆様方には、今後の活躍をもって感謝の意を表します。

2012 (平成24) 年度
電子システム系卒業生修了生進学・就職状況

2012年度は、企業の採用活動の開始時期が12月に変わったため、学生が志望企業を見定めるための準備期間が2ヶ月短縮されました。一方で、今年度も厳選採用の傾向が継続しています。近年はご承知の通りインターネットによる就職活動が一般化しているため、大手企業の競争率はすさまじい値になっていきます。学校推薦を受けた学生も厳しく選考される状況が続いています。

ここに掲載した今年度の実績は4月時点での最終データであるため、就職活動継続の学生数は、昨年度掲載した活動中の学生数(2月末時点)と比較して大幅に減少しています。大学院博士前期課程の修了者の進路決定率は99%で、その内訳は就職者が95%、進学者が4%です。また、学部卒業者の進路決定率は92%で、その内訳は就職者が41%、進学者が51%で、進学者が半数を超えています。

業種別にみると、就職先が幅広い業種に広がっている事は例年通りですが、「電気・電子・機械」は昨年度と比較して19名減少しており、製造業の昨今の厳しい経営状況を伺わせています。また、この数年間「その他」は連続して増加する傾向で就職先の多様化の進行を示してきましたが、今年度は16名減少しました。他方、「電力・ガス」「運輸・通信」「情報・システム」はそれぞれ若干数増加しました。

近年、大学では、キャリアアオファスによる支援に留まらず、学部教育においても、キャリア教育科目をおいたり、専門科目の中で講演会を開催したりして学生の就職意識を早くから高めるための取り組みを行っています。また、電子システム系は今年度も非常に多くの求人を受けています。それだけに学生には幅広い視点を持って就職活動に望み、本人の適性にマッチした就職を実現してもらいたいと念じています。諸先輩の皆様には、より一層のご支援をお願い申し上げます。(就職委員 今井 茂)

I. 卒業生・進学者・就職者一覧

(2013年4月11日現在)

	卒業生	進学者	就職者	就職活動継続	その他
大学院(電気電子工学科)	58	1	57	0	
大学院(電子情報工学科)	22	2	20	0	
大学院(電子情報デザイン学科)	57	3	53	1	
電気電子工学科	100	47	45	6	2
電子情報工学科	82	45	30	5	2
電子情報デザイン学科	72	38	28	2	4
合計	391	136	233	14	8

II. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む) (順不同敬称略)

業種	企業名
電気・電子機械	三菱電機、ローム、村田製作所、オムロン、オリンパス、アイシン精機、ダイキン工業、村田機械、パナソニック、シャープ、ソニー、京セラ、住友電装、住友電設、住友電気工業、きんでん、ダイソー、豊田自動織機、富士重工業、富士電機機器制御、ニチコン、日本電産、富士電機、富士通テン、三菱電機プラントエンジニアリング、オムロンフィールドエンジニアリング、三菱重工業、本田技研工業、日立オートモティブシステムズ阪神、オムロンアミューズメント、オムロンオートモーティブエレクトロニクス、日本電機研究所、日立オートモティブシステムズ、キャノンマシナリー、三菱電機ビルテクノサービス、ソニーモバイルコミュニケーションズ、島津メディカルシステムズ、四電工、かんでんエンジニアリング、ニコン、千代田化工建設、西日本電気システム、日本電技、JR西日本テクシア、協和テクノロジーズ、カナック、東邦ガスエンジニアリング、豊田合成、神戸製鋼所、NOK、長府製作所、三栄水栓製作所、ミヤマ工業、川崎重工業、ジェイテクト、日本トムソン、オークラ輸送機、パナソニックプロダクションテクノロジー、大日本スクリーン製造、アドバンテスト、京セラSLCテクノロジー、ダイキンレグザムエレクトロニクス、GSユアサ、京セラドキュメントソリューションズ、豊國工業、アヤハエンジニアリング、福井村田製作所、日立超エル・エス・アイ・システムズ、東洋電機、IDEC、小林製作所、サムコ、山科精器、エネゲート、京三製作所、アイシン・エイ・ダブリュ、クボタ、トヨタ紡織、アイシン機工、コンピューターマネージメント、ボッシュ、TBカワシマ、タカタ、ハーマン、光昭、エスイーエム・ダイキン、竹田設計工業、日鉄住金プラント、阪神輸送機、タクミナ、日阪製作所、カシオ計算機、富士通フロンテック、ディップ、日本アイティディ、コスモスコーポレイション、ソレックス、近鉄エンジニアリング、大和冷機工業、エクセディ (100社/137名)
電力・ガス	関西電力、中部電力、北海道電力、大阪瓦斯 (4社/13名)
自動車	トヨタ自動車、スズキ、トヨタ車体、ダイハツディーゼル、ホンダカーズ大阪、三菱自動車エンジニアリング (6社/9名)
運輸・通信	西日本旅客鉄道、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、KDDI、東日本電信電話、イー・アクセス、ドコモ・モバイル、東海旅客鉄道、ソフトバンクテレコム (8社/15名)
情報・システム	エヌ・ティ・ティ・データ、トランス・コスモス、東芝ソリューション、NECシステムテクノロジー、富士通エフ・アイ・ピー、デンソーテクノ、シーイーシー、コベルコシステム、エヌアイディ、ルネサスデザイン、CIJ、ドコモ・システムズ、中央コンピューター、アイティフォー、エヌ・ティ・ティ・データ九州、パナソニックAVCテクノロジー、トヨタケラム、ケーケーシー情報システム、京信システムサービス、エヌエスソリューションズ中部、シスメックスCNA、サミーネットワークス、NECネットエスアイ (23社/24名)
その他	大林組、鹿島建設、大成建設、竹中工務店、アサヒ飲料、西山ケミックス、ハンジョウ、成田国際空港、丸紅、長瀬産業、ベネッセコーポレーション、十六銀行、シーテック、タマディック、メイテック、インテリジェンス、アルプス技研、シークス、エクシード、一般財団法人関西電気保安協会、オムロンソーシャルソリューションズ、名古屋市人事委員会、広島市人事委員会、京都府人事委員会、小豆島町役場、静岡県警察本部、宇治市役所、草津市役所、加賀市役所、いなべ市役所、大阪府教育委員会、アイシンエンジニアリング、多気郡農業、家業 (34社/35名)

立命電友会
2012年度入会式の開催

例年3月の卒業式・修了式当日に開催されている「電子システム系卒業・修了祝賀会」(理工学部電子システム系主催)の冒頭にて、立命電友会の「2012年度入会式」を執り行いました。当日は、約100名の卒業生・修了生の参加がありました(参考・卒業生数約250名、大学院修了生数約130名)。本会からは、瀬見会長以下副会長3名、顧問1名、他幹事8名、計12名の学外役員が参加しました。入会式冒頭、まず瀬見会長より卒業・修了に対する祝辞、社会人としての心得、立命電友会における活躍に対する期待などについてのお話がありました。その後、参加した役員一人一人の紹介が行われました。引き続き、天野副会長より本会の概要と共に、活動内容(会員情報の管理、会報発行、インターネット・サービス「ホームページやメールリングリス」)、同期同窓会の開催支援、支部・関連同窓会、総会など)についての紹介が行われました。最後に、事務局より閉会の辞を述べ、入会式を終えました。

参加した学外役員は、引き続き開催された「電子システム系卒業・



修了祝賀会」に参加し、学科教員や卒業生・修了生とともに飲食・歓談の時間を過ごし、交流をはかった。(事務局長 高山)記



学系便り

平成25年度
電子システム系の主な役職者
電気電子工学科

- 学科長 今井 茂
- 就職委員 鷹羽 浄嗣
- 電子情報工学科 藤枝 一郎
- 学科長 齋藤 茂
- 就職委員 馬杉 正男
- 電子情報デザイン学科 福井 正博
- ◎は学系長です。

【退職】

- 小松 康廣 平成25年3月31日、定年退職
- 小野 雄三 平成25年3月31日、定年退職
- 左貝 潤一 平成25年3月31日、定年退職

【新任】

- 渡邊 歴 平成25年4月1日、電気電子工学科教授に着任
- 柿ヶ野 浩明 平成25年4月1日、電気電子工学科准教授に着任
- 福水 洋平 平成25年4月1日、電気電子工学科准教授に着任
- 寺本 高啓 平成25年4月1日、電気電子工学科助教に着任
- 熊木 武志 平成25年4月1日、電子情報工学科任期制講師に着任
- 孟 林 平成25年4月1日、電子情報工学科助教に着任

計 報

卒年	氏名	平成
昭14年	平等路金藏	平成22年
昭23年	山村 眞平	平成24年
昭26年	山東 弘二	平成24年3月2日
昭27年	池田 陽吾	平成24年5月
昭31年	吉川 栄逸	平成24年6月7日
昭31年	菊池 博司	平成24年10月15日
昭32年	植村 義彦	
昭36年	三宅 信一	
昭38年	平網 文夫	平成24年6月
昭43年	武川 俊雄	平成24年9月6日
平8年	田原慶一朗	平成25年3月13日

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

事務局便り

立命電友会会報40号の発行に当たり、ご寄稿頂きました皆様に対し、心よりお礼申し上げます。前回の会報の「新役員紹介」にてお名前が間違っておりましたので、訂正させて頂きます。
田口耕三→田口耕造(正)になります。
大変申し訳ございませんでした。宜しく願います。(宮林)

立命電友会連絡先
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部電子システム系内
立命電友会事務局 高山 茂
宮林和子(月・木)
電話 077(561)2662
FAX 077(561)2663
E-mail: kma98019@se.ritsumei.ac.jp
http://ritsumei-tanyukai.com/
(会報の題字は久保之俊氏)